

教育目標		普通科と芸術系学科からなる学校としての特性を生かし、感性を育み、心豊かな生徒の育成を目指す。					総合評価
運営方針		安全で安心な学習環境のもと、基本的な生活習慣の確立と学力の定着・向上を図り、生徒一人一人の個性を尊重し伸ばす指導をする。					
		生徒の心身の健康に留意し、きめ細やかな指導のもと、生徒の自主的・主体的活動を推進し、自立心や社会性を育成する指導をする。					
		普通科と芸術系学科からなる学校としての特性を生かし、教職員が一体となって学校運営を進め、魅力と活力ある学校づくりをする。					
平成29年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標		
授業改善に努め、「わかる授業」を進めることで、学力の定着と向上に一定の成果があった。また、基本的な生活習慣の確立にも成果を上げるとともに、落ち着いた環境で教育を推進することができた。 今後は、生徒の学習意欲の向上を促す授業の改善を進め、思考力・表現力の伸長に努める。また、生徒の自主的活動を推進し、自立心と社会性の育成を図る。 さらには、感性を働かせて、思いや考えに豊かな意味や価値を創造し、向上心を持って進路を選択する力を育成する取組を課題とする。		学力の定着・向上と主体的な進路実現			「わかる」授業・「主体的に取り組む」授業を進め、学力の定着・向上を図り、思考力・判断力・表現力の育成に努める。キャリア教育を充実させ、生徒自らが主体的に進路選択できる力をつける。		
		基本的な生活習慣の確立と社会性の育成			生徒一人一人の理解に努め、はじめある生活態度と他者を思いやる心を育成する。生徒の自主的・自発的な活動を推進し、社会の一員としての自覚を深めさせる。		
		心身の健康と体力の保持増進			教科指導や特別活動、保健・食育指導等とおして、体力の向上を図り、健康への意識を高める。教育活動全体とおして安定した豊かな心、強い心を育てる。		
		芸術教育の推進と交流活動の展開及び発信			芸術教育の充実発展を図り、魅力と特色ある学校づくりを行う。交流活動とおして地域や保護者、関係機関との連携を深め、積極的な情報発信をする。		
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習活動	生徒の基礎学力向上とともに、自主的な学習姿勢の向上を図る。次期学習指導要領に示される学習の指導法及び評価について調査研究を進める。	・「下学上達」に積極的に取り組ませる。現状や効果を各学年から聞き取り、各学年の生徒実態に即した、より充実した内容に改善していく。学年からの意見を整理し、内容を改善できればB、それに基づいた成果が上がればA。					
		・「主体的、対話的で深い学び」について、調査・研究を各学科・教科とともに進めると共に、アクティブラーニングを意識しながら授業を行う。予習復習の習慣づけを重点的に行い、授業をより能動的なものにする。各教科で導入が進めばB。その結果、有効な改善ができればA。					
		・観点別学習状況評価を各学科・教科とともに進める。来年度に向けて、職員間に一定の意思統一ができればB。基準ができ、何らかの形での試行ができればA。					
	各学科、類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討、編成をする。	・学習指導要領に基づいて、各学科、類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討を継続的に行う。その進捗状況により評価を行う。					
学校行事等の円滑化と、儀式での集中力の向上を図る。	・各分掌・学年・学科との連携や調整を密に図り、学校行事の目的を果たせるよう円滑な運営を目指す。						
	・式典の意義を考えさせるとともに、はじめをつけさせる指導を通して集中力を長時間維持させる。						

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生活指導	基本的生活習慣を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活のなかで自然にきちんと挨拶ができるよう習慣づけをする。また正しい言葉使いの指導に積極的に取り組む。朝の挨拶運動や、全校集会などで挨拶することの大切さについて伝えていく。</li> <li>特別な事情のない遅刻をなくすことを目指し、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。遅刻を繰り返さない取組をする。</li> <li>制服の着こなしを意識し、きちんとした身だしなみを身につける。</li> </ul>				
	日常生活におけるルールを徹底させ、マナー・モラル向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時間における公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図る。また、交通ルールに対する考えをしっかりと持ち、事故に遭わない遭わせない安全意識を徹底させる。</li> <li>定期的に登下校の見回りを行うと共に、講演会などを通じて安全意識をより一層高める。</li> </ul>				
進路指導	生徒の主体的な進路実現の支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路の年間計画に基づき、進路HR、ガイダンス、集会等を通じて、進路を真剣に考える姿勢を育む。</li> <li>従来の知識型入試のみならず、思考探究型入試に対応できる学力の伸長を目指し、生徒が主体的に学習に取り組める環境整備に努める。</li> </ul>				
	キャリア教育の構築と推進に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年や担任と進路指導部が連携し、生徒一人一人の進路目標を理解して、各人の進路実現に向けた指導を展開する。</li> <li>インターンシップやオープンキャンパス等への参加を促し、生徒が自身のキャリアデザインを構築するための経験や機会を提供する。</li> <li>ガイダンスやセミナー、講演会等を充実させて、生徒や保護者に適切な進路情報を提供し、進路意識の啓発をおこなう。</li> </ul>				
	変化する入試環境に向けた進路情報収集の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学や専門学校等での学びや入試選考の形が大きく変わっていきな、最新の情報を生徒に提供すべく、積極的に現下の動きについて情報収集に努める。</li> <li>2020年の大学入試共通テストに向けて、情報を収集するとともに、本校生に対する進路指導のあり方の研究を図る。</li> </ul>				

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
特別活動	生徒の自主的、主体的な活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会が先導し、文化祭などの学校行事に積極的に生徒が関わる。</li> <li>・生徒会が中心となって美化活動、ボランティア活動、挨拶運動などへの参加を奨励・推進する。</li> <li>・他校・地域などとも積極的に交流し、生徒会の活躍の場を広げる。</li> </ul>				
	学科間や高等養護学校分教室との交流、部活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術学科の様々な活動や委員会活動を生徒会が中心となって全校生徒に配信する。</li> <li>・学年クラスを越えたグループでのフットサル大会や文化祭への参加を強く呼びかける。</li> <li>・各部の活動の更なる活性化を図るため、生徒会としての範囲内で施設や設備の充実を図る。</li> </ul>				
	図書館利用・運営の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の図書館利用や読書活動に積極的に働きかける。またクラス図書委員の活動の幅を広くし、新たな角度からの図書館利用を図る。</li> <li>・課題研究や資料参照など、教科での図書館利用を一層活性化させるために各教科との連携を深める。</li> <li>・次年度の新生へへの図書館オリエンテーションの実施方法や企画について検討する。</li> </ul>				
環境 安全教育	校内、校外美化の徹底と防災、防火に関する意識啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内及び校外美化活動を各学期に1回実施する。</li> <li>・避難・消火訓練・救助袋降下訓練、シェイクアウト訓練を通して防火、防災の意識向上を図る。</li> </ul>				
健康教育	健康状態を把握し自己管理できる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会の活動を通して健康意識の向上を図る。</li> <li>・保健だよりを月1回発行し、健康意識を高める。</li> </ul>				
	新体力テスト、体育大会、長距離走大会の安全な運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員会の活動を通して各大会の円滑な運営を図る。また、体育大会について生徒の感想、意見の集約を行い、「満足した」「おおむね満足した」が80%以上になるよう努力する。新体力テスト50m走を工夫する。</li> </ul>				
人権教育	人権に関する知的理解と人権意識、感覚の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権HR・講演会等を通じて人権問題に対する意識の向上を図る。</li> <li>・全学年に夏休みの課題として人権作文を書かせる。</li> <li>・共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育を推進する。</li> </ul>				
	生徒の交流を充実させ、共に生き、共に育つ仲間集団作りの取組を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バルツァゴードル(重症心身障害児学校・病院)との交流会を実施する。</li> <li>・奈良養護学校との交流会を年2回実施する。</li> <li>・高等養護学校分教室との交流を学校行事を通じて行う。</li> <li>・音楽科やその他の部とも連携し、新しい交流会の形を作る。</li> </ul>				

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育相談	教育相談および特別支援教育を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育推進委員会を定例化し、年間3回開催するなかで、さらに生徒理解を深める。</li> <li>様々な人権課題に対する知識理解を深め、必要となる相談や支援の取組について職員研修会を開催する。</li> <li>ピアサポーターとの連携を深め、生徒理解に活用するためにピアサポーターとの連絡会議を学期に1回実施する。</li> </ul>				
広報活動	広報活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webページ、新聞、各種メディア等を利用した広報活動を一層充実させる。</li> <li>学校見学会を充実させる。</li> <li>中学校等への積極的な情報提供を図り、本校のよさを広く伝えていく。</li> <li>Webページの充実と活用について職員に啓発する。</li> </ul>				
育友会・同窓会活動	保護者との意思疎通の向上を図るとともに同窓会活動を円滑化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>育友会学級役員との連携を図り、各行事への保護者参加率10%超を目指す。</li> <li>同窓会総会、役員会等のスムーズな運営に助力する。</li> </ul>				
第1学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみ、あいさつ、正しい言葉遣いの指導を徹底する。</li> <li>遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(生徒個人ごとに、各学期5回以内、年間15回以内を目標とする)。</li> <li>ルールや期限を厳に指導し、特別な指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の3%以内を目指す。</li> </ul>				
	家庭学習の習慣づけを行い、基礎学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「下学上達」に積極的に取り組み、学習習慣の定着とともに基礎学力の向上を図る。</li> <li>教科担当と連携をとりながら理解不足の状況を把握し、補習の実施など学年からも呼びかける。</li> <li>提出課題を把握して全員提出を呼びかけ、期日までに提出を徹底させる。</li> </ul>				
	自己表現力、コミュニケーション能力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事やHR活動に積極的に参加させることで、なかまづくりや他の生徒を尊重する態度・意識を持たせる。</li> <li>課外活動への積極的な参加を促し、チームワークや社会性の獲得を目指す。</li> </ul>				

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第2学年	基本的な生活習慣を身につけさせ、規範意識を向上させる。特に、修学旅行に向けて時間を厳守する態度を育てる。	・遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする)。 ・服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す)。 ・チャイムですぐにスタートできるように余裕を持って行動をする習慣作りを行う。				
	基礎学力の向上のため、課題提出の厳守と家庭学習の習慣化を図る。	教科担当と連携を密に取り、生徒のつまずきに早期に対応し、基礎学力の定着を図る。また、課題の提出を全生徒に厳格に守らせるように徹底する(期限厳守、提出率100%を目標とする)。				
	社会性の意識向上と習得を目指す。	学校行事や学級活動、部活動などさまざまな機会を通して、自己を表現する力や他の生徒とのコミュニケーションをとる力を身につけさせる。また、全生徒が自発的に気持ちのよい挨拶ができる集団を目指す。学校評価アンケートで80%以上の回答を目指す。				
第3学年	礼儀・マナーの大切さを再確認し、基本的な生活習慣の更なる確立と実践を図るとともに、規範意識を一層向上させる。	遅刻者の減少に努める。(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。全体として前年比20%減少を目指す。) 服装・頭髪等を正すなど、最高学年としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す。)				
	社会性の獲得を目指す。	学校行事や学級活動、部活動などさまざまな機会に、さまざまな人と関わることによって、自己表現力・コミュニケーション力・社会性の獲得を目指す。				
	生徒の目標とする進路を実現できるように必要な支援を行うとともに、生徒個々の自己管理能力を向上させる。	実力養成講座、各種ガイダンス、面接・小論文指導、学年集会、三者面談などを通して、自己の進路実現に向けた意識・意欲を高める指導を徹底する。				